

設楽ダムの建設を止め、自然豊かな水源の森を育て、豊川の清流と三河湾を守ろう！

1 本末転倒した設楽ダム計画

6000万 m³ / 9200万 m³ 65% 不特定

設楽ダム計画では有効貯水容量 9200 万 m³ の 65%、洪水調節容量 1900 万 m³ を除いた利水容量 7300 万 m³ の 82% に当る 6000 万 m³ が、不特定(流水の正常機能の維持)容量とされています。ダム貯水容量の大半が不特定目的とは異常です。

この 6000 万 m³ は、取水で減った宇連川や豊川下流の流量を若干増やすためとされています。川の環境改善の看板を掲げて巨大ダムを造り、これまで大きな河川事業がなく無傷できた自然豊かな寒狭川上流域を水没させ、ダム下流の寒狭川の渓流環境も壊すことは、本末転倒もはなはだしいものです。

2006 年 2 月の豊川水系水資源開発基本計画(フルプラン)変更時の検討資料をよく読めば、豊川用水・総合用水の水供給の態勢は十分整っていて、新規水資源開発の必要がないことがわかります。



(大島ダム、豊川総合用水事業 2002 年 3 月完成)

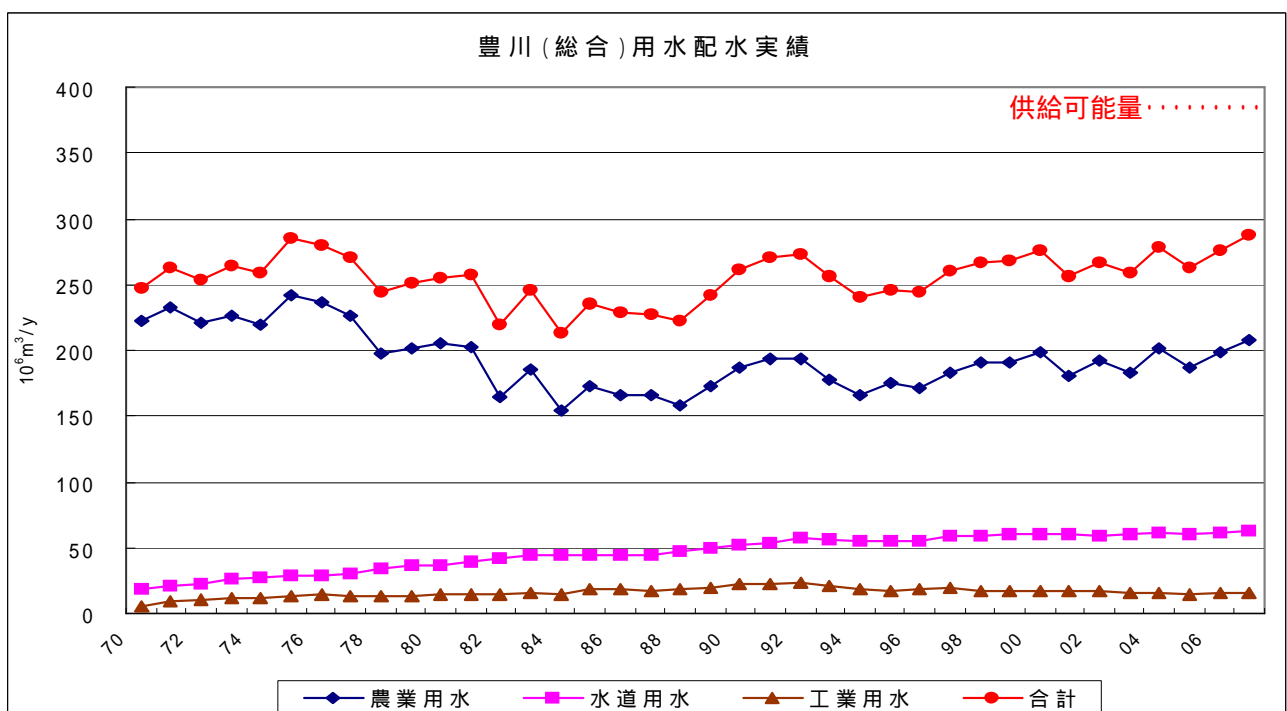
2 水は足りています

2002 年に完成した豊川総合用水事業で、以前の豊川用水に比べて約 5 割増の取水ができるようになり、約 3 億 8 千万 m³ を確保しました。その結果、現在はおよそ 1 億 m³ を越える供給余力ができました。

農業用水に関しても、耕地面積は減っており、施設栽培の節水技術も進んでいますから、今後需要は伸びるどころか減って行きます。

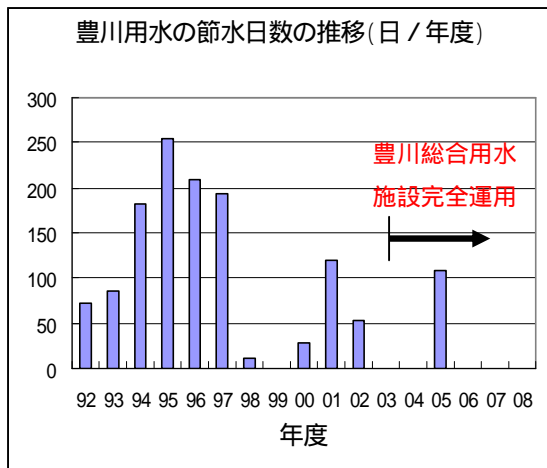
設楽ダムは、水道用水約 600 万 m³、および農水約 700 万 m³、計 1300 万 m³ の新規利水容量を目的に掲げていますが、必要はありません。

(水資源機構・東海農政局資料に基づいて作成)



3 渇水の備えはできています

この6000万 m^3 は、渇水時には豊川用水への利水に使うとされています。当地域が観測史上1番の少雨年であった2005年の経験では、節水の呼びかけと、わずかの日数の給水圧調節のみで、断水などの被害は全くありませんでした。総合用水事業が2002年度に完成し、施設の全面運用が始まった2003年度以後、2005年度を除いて、無節水の年が続いています。2009年末には、連続無節水1300日の記録を立て、現在も記録を伸ばし続けています。設楽ダム建設目的である10年に1度程度の渇水への対応は、既に十分でき上がっています。設楽ダムを造って、水を溜める必要はありません。



4 ダムは清流・寒狭川を破壊します

設楽ダム建設予定地は、アユやアマゴが釣れる愛知県一の清流寒狭川の上流部です。森林から湧き出して絶え間なく谷川を流れ下ることによって、清流は維持されています。

清流はダムで堰き止めれば濁水に変わります。悪臭すら放つようなダム湖では、清流にすむ生物はみな死に絶えます。雨後の増水時に砂礫が流れることも重要です。ダムができれば下流に砂礫が流れません。

ダム湖に沈む地区に絶滅危惧種で国の天然記念物、伊勢三河湾に流れ込む河川にのみ生息するネコギギが棲んでいます。寒狭川は天然記念物で絶滅危惧種のネコギギの愛知県下最大の棲息地です。清流に生きるネコギギは



(固有種ネコギギは夜行性、伊奈紘さん提供)

溜まり水のダム湖では生きられません。さらに、ダム下流では流量の変化に乏しい川となるため、石の隙間に泥が詰まって川虫も稚魚も棲みかを失います。アユが食む石の表面に生える珪藻も、出水がなくなって石が洗われなくなれば育ちません。清流・寒狭川は、ダムで濁った水が、わずかに流れる用水路のようになってしまいます。

5 寒狭川流域は希少生物の棲み処！



(設楽ダム予定地付近を飛ぶクマタカ、大羽さん提供)

ネコギギの他にも、ダムの水没予定地にはムカシトンボ、ゲンジボタル、ナガレホトケドジョウ、モリアオガエルなどが棲んでいます。大型の猛禽クマタカの繁殖縄張りも予定地にかかっています。オシドリ、ヤマセミ、カワガラス、カワネズミ、カジカガエルなど、自然豊かな川筋にしか棲めない生き物をはじめ、豊かな谷筋の里山には、ヤマドリ、ノウサギ、タヌキなど、クマタカの餌となる動物が棲んでいます。大きな河川工事がなく、豊かな自然が維持されてきた寒狭川流域の自然を保全す

ることは、次世代へ大切な財産を残すこととなります。国は環境影響調査を莫大な費用をかけて実施しましたが、何らの有効な保全策を示していません。



(田峯のオシドリ、伊藤仙二さん提供)

6 ダムは三河湾の汚濁を強めます

海の浅場は海底まで十分な日照があるので、藻場ができ、珪藻などの付着藻類も活発に増えます。アマモや珪藻が、魚介類の餌となり、さらには多くの水鳥や大型の動物を育てます。



ダムによる貯水は、豊川河口から三河湾奥に注ぐ淡水量を減らして、河口・内湾に特徴的な鉛直循環流(エスチュアリー循環)を弱めます。その結果、河口干潟や藻場の生物生産が弱まり、魚介類の生産が衰えます。また、外海水を呼び込む力も弱まるので、海水交換が衰え、三河湾の汚れはひどくなります。

また、夏季にダムの貯水によって湛水流入

が弱まると三河湾の貧酸素水塊は一層発達し、苦潮が発生しやすくなります。

さらに、ダム湖の堆砂が進めば、河口への土砂供給が断たれて浅場が浸食され、アサリなどの生活場所が失われます。すでに宇連川からの砂は止まっています。設楽ダムを造れば三河湾生態系に大きな影響が及びます。



(豊川河口一帯に広がる六条潟は日本一のアサリ発生場所)

7 水害はダムではなくなりません

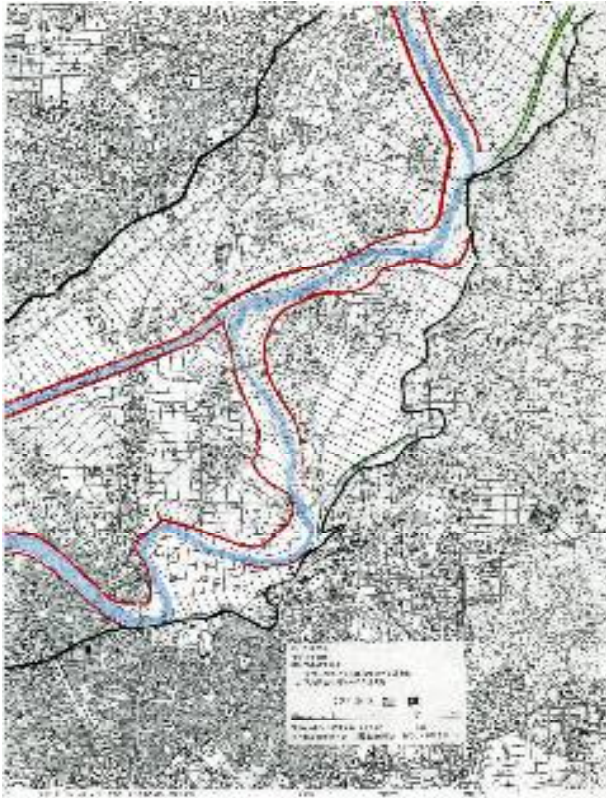
設楽ダムがカバーする集水面積は 62km² で、新城市石田地点上流の豊川集水域全体に占める比率はわずか 11%に過ぎません。既設の利水ダム、宇連ダムと大島ダムは洪水調節能力がありません。したがって、設楽ダムを造っても下流の水害はなくなりません。

豊川下流域では、1965年に豊川放水路が完成して水害は軽減されました。

放水路の完成の後、右岸側では不連続堤を締め切って、近年低地の開発が進んで住宅も増えてきています。大雨の際の内水被害の増加や、想定を超える大洪水で破堤した場合には、甚大な被害が生じる恐れがあります。

いっぽう、左岸に残る4箇所の不連続堤・遊水地(「霞堤」)は、現在も大きな洪水を一時的に貯えて大きな水害の発生を防いでいます。豊川の貴重な文化遺産、土木遺産であり、有効活用することが望まれます。

下流低地の水害をなくすには、ダムに頼るのではなく、森林や水田の保全、堤防の整備強化、不連続堤・遊水地の活用、水害危険度の高い低地の開発規制など、流域全体で総合的に取り組むことが重要です。



(豊川下流部左岸の不連続堤・遊水地、洪水の際に浸水が始まる差し口付近には住宅はできていません)

8 ダムは地域社会を破壊します

ダムができると確実に人口の流出が進み、設楽町・奥三河のみならず、豊川流域圏の持続的発展に障害をもたらします。

100軒を越す水没予定住民が設楽町から出て行く可能性があります。ダム湖によって孤立してしまう集落から、立ち去らざるを得なくなる住民も出てくるでしょう。



(水没線ぎりぎりの大名倉集落も全戸移転を迫られている)

生まれ育ったふるさとを捨てて出て行くことは、大変なことです。水源地域の山地に人が住まなくなれば、山林の手入れも困難になり、

山林は荒れます。上流の山林が保全されなければ、大雨による山腹崩壊、下流域では大きな水害の発生が起きることになるでしょう。良質で豊富な水資源を確保することも難しくなります。設楽町田口をはじめ、残存する地区にもダム建設とダム湖の出現は、地すべり・地震災害、微気候変化、人口減少など、深刻な影響を及ぼします。ダムづくりではなく、森林や溪流とともに生活できる「村おこし」を流域全体で支援することこそ緊要なのです。

9 生命を育む森と清流を次代に！

設楽ダムの建設費は、数千億円を要し、そのおよそ3割を愛知県が負担します。現在、国、県、市町は莫大な借金を抱えています。水道料金を押し上げ、農業用水の料金にもつけが回ってくるでしょう。いつまでも、無駄な巨大ハコモノ施設を造り続けるようなことをしては、高齢社会、人口減少期を迎えて、健康で文化的な住民の暮らしは守れません。税金の使い方を見直して、無駄を省き、時代に合ったものに変えていかねばなりません。

奥三河の自然豊かな森が生み出す清流、ネコギギやカジカガエルが棲み、アユやアマゴ釣りを楽しむことができる自然豊かな寒狭川、下流部まで透明感を保つ豊川、その河口に広がる六条潟のアサリをはじめ、海のめぐみが育つ三河湾・・・豊かな愛知県東部・豊川流域の自然を次世代に受け渡していくことこそ、地域の大切な目標であるべきです。

行政はダムが自然や社会を壊すことを隠していますが、巨大ダムは取り返しのつかない環境破壊を惹き起こします。ダムを止め、地域全体(流域圏)の力を合わせ、豊かな水源の森と清流の里を守り育てましょう。



設楽ダムの建設中止を求める会

代表 市野 和夫

441-1101 豊橋市賀茂町山屋敷 28-1

事務局: 奥宮 芳子

440-0069 豊橋市御園町 1-3

Tel & Fax: 0532-54-7305

E-mail: ichinok7@mx3.tees.ne.jp

URL: <http://no-dam.net/index.html>